

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「真心とやさしさ 誠意を持ってお年寄りに接することで 地域福祉に貢献します」 また、独自の新たな理念として「ゆっくりにのんびり ○(まあるく)行こう」を作りあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新たな理念はスタッフ皆で作らあげ、利用者様一人ひとりの生活ペース、個性を大切に、どんな状況であっても個々の利用者様が穏やかな日々を送って頂けるように支援している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族様とのコミュニケーションを大切にしている。地域の方の理解については、地域の方にボランティアをお願いし、利用者様の暮らしぶりや職員の関わり方を観て頂き、ボランティアの方々を通し地域の方の理解を得られるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	以前は入居者様と一緒に近所の市場に買物に出掛け、顔を覚え気軽に声を掛け合っていたが、重度化により最近はお出掛ける頻度が少なくなっている。	○ 天気のよい日に散歩に誘い近隣の皆さんに、こちらから挨拶したり、気軽に声を掛け馴染み深い雰囲気をつくって行くように努めていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	直接の自治会、老人会への参加は出来ていないが毎年、ボランティアさんの協力で、地域の文化祭に入居者様の作品を出展させて頂き、一部の入居者様に限られるが当日は文化祭を見に行っている。 また、小中高生徒の体験学習も受け入れている。	○ 今後も文化祭への参加をお願いし、学生の受け入れを通し地域参加をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域貢献としての取り組みはまだまだ出来ていないが、在宅介護に行き詰まり、飛び込みで相談に来られた家族様の話しに共感し、少しのアドバイスでも家族の不安軽減に繋がった。</p>	○	<p>在宅で認知症介護をされている家族様にも気軽に足を運んで頂ける場所になりたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>支援のあり方を見直す機会と捉え、支援の質や向上に繋がっている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者様の暮らし振りや行事での出来事、また事故や苦情についても報告している。評価内容も報告し、感想意見、提案をお願いしている。</p>	○	<p>日頃の外部の方の声を聞く機会であり、意見、疑問を含め委員会で率直な想いや提案を出して頂ける会にしていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>社会福祉協議会、高齢介護課の担当者と連携を図り、相談報告を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>当事業所の紹介により権利擁護事業を利用されている入居者様がおられる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者様への接し方、言葉遣いには意識して気をつけている。</p>	○	<p>馴れや職員のストレスが利用者様の尊厳を害するものにならないよう、常に意識しておく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭にて説明、確認をとりながら理解を得て契約をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの明確な表出はないが、暮らしぶりの中で察するように心掛け、職員主体の支援にならないよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的には行っていないが、殆どの家族様は月2回以上来所されている為、その時に報告している。体調等急を要する時には電話をしたり、来所をお願いする事がある。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情が出た際には職員間で共有し原因を探り改善に努めている。上司に報告すると共に運営推進会議にて口頭、文書にて報告を行っている。	○ 今後も家族様からの言葉を真摯に受け止める姿勢を忘れない。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでの意見交換時や日々の支援時に生じてくる意見、提案をその都度検討し合うようにしている。参加できない職員にはノートにて申し送っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	原則、勤務表にて調整を行っているが、その時々々の状況に応じ職員理解のもと、変更を心掛けている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一昨年は管理者も含め大幅な職員交代があったが今春からは離職や異動は殆どない。	○ 職員とのコミュニケーションも大切にし、離職に繋がる職員のストレス回避に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	案内や口頭にて法人内外の研修に参加できる機会を確保している。強制ではなく、個人判断に任せている。 又、所内での緊急に職員一人一人が落ち着いた対応ができるように、さまざまなケースについてのシュミレーションを独自で行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は研修や地域ケア会議に参加し、交流を行っている。 法人内で他部署と連携、介護部会を立上げサービスの向上を目的とした意見交換や勉強会を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特定の休憩場所が確保されておらず、所内リビングで入居者様と一緒に過ごしているのが現状。	○ 疑問や不満を溜め込まないよう、職員間でのコミュニケーションを大切にし、話しやすい環境づくりに努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上からの指示だけで動くのではなく、自身の考えや提案を引き出そうと努めている。	○ 一人一人の職員の個性、発揮できる力を十分見極めたうえで、必要に応じ助言、協力をしていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人様に会いに行ったり、ホームの見学にきてもらったりして、本人様と話しをする事により表情や行動、言動の中で本人様を知ろうと努めている。 日々の支援の中から信頼関係が生まれて来ているのが現状。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族様入居前に見学を兼ねた面接を行っているが、最初から真の想いを表出してくれる事は少ないように思われる。	○ 特に入居初期には、家族様との情報交換を密にし、話しをたくさんする事で真の想いの表出や信頼関係の構築に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は担当のケアマネージャーから来る事が殆どで、家族様と話す時は、入居を目的とした相談になっている。「聴く」事により、入居希望の動機、本人様の状態を探り支援方法を見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの入居を避け、何度か本人様と話す機会を持ち、顔馴染みになるよう努めている。入居当初は本人様の行動や言動を注意深く見守るようにしている。家族様にも生活ぶりを報告したり、支援していくうえで生じた疑問等を相談するようになっている。	○	本人様がホームでの生活に馴染む迄にはある程度の日数を要することを職員は十分理解し、焦らず気長にその方を知る努力をする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の重度化で介護が優先されるようになっているが、殆どの入居者様は日中はリビングで職員や他の方と過ごし、一緒に家事や遊びをする中で笑ったり、怒ったりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居生活が長期になるに連れ、家族様との距離ができていられる方も居られる。必要に応じこちらから連絡をとる事もある。来所持には近況報告をし、その方の暮らしぶりを知って頂くようにしている。	○	ホームでの看取りを希望されている方も居られ、今後はより一層家族様を巻き込む支援をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人様の子供同士の関係もきちんと把握し、職員の対応により、それぞれの家族様と本人様がより良い関係を構築し、維持できるように努めている。	○	一人の利用者様にも、それぞれの家族様に応じた距離間が必要な時もある事を認識しておく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内や知人が尋ねて来てくれる事はあるが、本人様から会いに行く事は殆どない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が一人の方に関わり過ぎると利用者様間の不和に繋がる事がある事を認識。利用者様同志の関わりを職員が邪魔をしないようにしている。トラブル発生時には職員が間に入り治めるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者様の身内の方に運営推進委員として残って頂き、協力を得ている。他の施設に転所された方の様子伺いにも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調や嗜好、帰宅願望等本人様からの明確な表出は難しい事もあるが、日々の暮らしぶりの中で見極め職員間で話し合い検討している。家族様に相談協力をお願いする事もある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を得るようにしているが、本人様が覚えていなかったり、家族様も分からない事もあり、把握しきれていない事もある。本人様とのふとした会話の中で知る事もある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の関わりの中で体調の異変や有する力の変化を見抜き、その日、その時の状態に合った支援に努めている。見抜く力は職員によって差があるのも現状。口頭による申し送りや記録で情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアの方向性については医師、訓練士等の指示やアドバイスも聞き、職員間で話し合い計画に反映している。家族様の想いは職員との会話の中で表出される想いを計画に入れている。家族様に計画書の内容を十分に説明できていない事もある。	○	職員本位の支援にならない計画を作成する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の支援の中で個々の利用者様のその時の状態に合わせたケアを行っている。必要に応じ関係者に相談する事もある。実践が先になり、見直し計画書の作成は後付けになっている。	○	利用者様の状態に合わせ見直し計画書も作成していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者様別に日々の暮らしぶり、バイタルサインチェック、食事、排泄の状態を記録している。職員間での情報共有と共に医師への情報提供としても活用している。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他部署の介護、看護、理学療法士、医師等と連携し、協力を得ながら支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様個人の意向としてはないがボランティアさん、地域の婦人会の会長さんの協力を得て畑の維持や、文化祭への参加を継続している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	重度化により、他者との交流が難しくなってきたが、時々併設しているデイケア、老健施設の利用者様と一緒にレクリエーションや余興を楽しんでいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらっている。権利擁護を利用している利用者様も居られ、相談や指導を仰ぐ事もある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、病院とも併設している。定期的に、または緊急時でもすぐに受診が可能である。3回/週 担当医が訪問し、利用者様の体調管理を行って来てくれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>現在はまだ、その状態ではないが今後、看取りの計画書を作成し、家族様の想いを改めて確認し、医療関係者も含めて全職員で方針を共有していけるようにする。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>医療を重視するのではなく、馴染みの場所、馴染みの顔を見て心の安らぎを感じ、残りの日々をその人らしく暮して頂ける支援を目指したい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>出来るだけ住み替えのない支援をしていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>乱暴な言葉にならないよう指導、実践している。記録類は事務所内の棚に保管している。</p>	○	今後も職員に対し、利用者様の人権を尊重した支援に勤めるよう指導していく。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者様の出身地の方言を使う等、一人ひとりの個性や状態に合わせた対応や説明の仕方をしている。職員側からの無理強いをしないよう努めている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>利用者様一人ひとりのペースを重視し、危険が予測されない限り行動を制限することなく過ごして頂くように努めているが、重度化に伴い職員が決定することも多くなってきている。</p>	○	一人ひとりの生活ペースを大切にしながらも安全に暮らして頂く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>自立している方は居室内のダンスから自身で選んでおられる。支援を要する方は好みを聞き職員が用意している。家族様と美容院に行かれたり、家族様が来所され髪を切る、等されている方も居られる。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>一部の利用者様に限られるが、職員と一緒に食事の盛り付けや片付けを行っている。</p>	○	段々と台所に立てる方が少なくなっているが、職員が傍で見守る事でその人の得意を發揮できる支援をしていく。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>本人様や家族様からの情報で嗜好を確認している。行事時等、年に数回は皆様の大好きなお寿司の出前をとる事もある。また、食欲をなくした方には「食べたい物を聞く」等の配慮をしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援の必要な方には、昼夜問わず、声掛け確認を行いトイレ誘導を行っている。また、おむつが必要な方でも、夜間はおむつを使用し日中は外し適宜にトイレ誘導を行っている。排泄後はホットタオルで清拭を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自己決定できる方はその日の意思に合わせて入浴して頂いている。介助の必要な方は曜日や時間帯を決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全介助状態の方に関しては起床、就寝時間をある程度決め支援を行っている。以外の方は自由にして頂いている。また、その時々体調を観て、居室でも休息を勧める事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中でその方の得意な役割(家事等)を持って頂くようにしている。しかし、高齢や認知症の進行で段々と出来ない事が増えてきている。	○	家族様やボランティアさんの協力を得ながらの気晴らしや、個々の利用者様の日々その時々状態に合った力を出して頂ける支援をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の現金を所持している方は2名。しかし自らの意思で使用したりする事がなくなってきている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人で戸外に出ると戻って来られない可能性や事故に遭う危険があり、入居者様一人での外出は支援していない。戸外に出る時は職員と一緒にであったり、家族様と一緒にだったりである。しかし所内で過ごす事が多くなって来ている。	○	気候の良い季節や天候の良い日には戸外に出て頂く機会を多くつくっていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	市内外への遠足や日帰り旅行を行っている。家族様との外出、外泊も曜日や時間帯を強制せず、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話の設備があるが、自ら使用できる方はいない。掛かってきた時には、事業所の電話で対応している。年賀状を職員と一緒に家族宛に書いたり、送られて来た手紙を読んであげる、等の支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	曜日や時間帯を制限せずに訪問して頂いている。面会場所も自由にして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族様希望により、骨折の手術後の入居者様にベッド柵4本使用した事があるが、文書にて説明同意を得ると共に経過を記録し、状態を観て柵の使用を家族様理解のもと解除した。	○	今後も安易に身体拘束をしないケアを家族様にも理解して頂き、かつ利用者様の安全を確保しながら支援していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関が一階、居住スペースが二階である事から、玄関に職員の目がよく届かない。安全目的で現在は日中も正面玄関には施錠している。また、感染防止対策も兼ねている。居室に関しては、本人様を拘束する施錠は行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が声を掛け合い一人一人の利用者様の所在を確認するようにしているが、危険でない限り行動は自由にして頂いている。夜間は適宜に巡視しており、物音にも注意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	触ったり、口にして危険な物は施錠のできる場所に保管している。はさみ等は職員と一緒に使用し、本数を把握しておくようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、転落の防止策としては、その方の状態に合わせベッドの高さを低くしたり、ベッドを外したりの工夫をしている。窒息防止としては、食材を選んだり嚥下力の低下している方には、刻んだりミキサー食にして提供している。誤薬防止策は職員数人で確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行っていないが、慌ててしまった経験をもとに、全職員で急変時や事故発生時のさまざまなケースを拾い出し対応シュミレーションを行った。	○	今後も介護現場の緊急時の対応等の研修に参加したり、独自の訓練を行い慌てず、適切な対応に努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に法人内の消防や避難訓練に参加している。災害時には当施設が避難場所となるため、特に地域への働きかけは行っていない。	○	併設部署との連携、協力で入居者様の安全確保ができるよう、今後も訓練に積極的に参加していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方の状態により、予測されるリスクについて家族様に説明し検討した工夫や対策を伝え、家族様の理解を得るようにしている。また家族様の想いも確認している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェック、食欲、活気、顔色等で異変に早期に気づき、担当医や併設病院の医師に報告、受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者様の薬は職員が管理している。個々の利用者様の薬の説明書を事務所に保管しており、職員がすぐに確認できる。また、血圧数値や排便状態等、利用者様の体調を医師に報告し、投薬コントロールをして頂く事もある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	記録表にて利用者様一人一人の排便状態をチェックしている。排便確認困難な方については、食欲や不穏症状を観ている。朝食時にバナナや野菜ジュースを提供し便秘予防に努めている。便秘症の方については、医師に相談し、投薬によるコントロールも行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人で出来る方には声掛けをし、介助が必要な方には職員が就寝時、起床時に口腔ケア行っている。義歯は2回/週洗浄剤での浸けおきをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事、水分摂取量を記録している。野菜を多く使い昼食は肉、夕食は魚料理を提供している。また、その方の状態に合わせ、食材を細かくする等の工夫をしている。	○	今後、嚥下障害により十分な栄養確保ができなくなったり、誤嚥のリスクが高くなると予測される利用者様も居られ、食事提供には十分注意していく。また、ホームでの経管栄養も検討していく時期がきている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の全部署を対象とした研修会や勉強会に参加し知識を得、予防に努めている。特にインフルエンザ、ノロウイルスについては法人内で情報を共有し、予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板は使い分けをしており、使用した食器類も毎日ハイターにて消毒をしている。食材も毎日買出しに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には木材を使った表札をつけ、親しみやすさを工夫しているが、他施設との併設であり、玄関が分かり辛いと思われる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の写真を貼ったり季節の飾りをしたり・・・リビングはオープンキッチンになっていて職員や利用者様が炊事をしている姿が常に見えている。車椅子の使用や歩行の不安定な方も増え、所内が手狭になってきている。	○	2月にはトイレを広くする改修を予定している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を多く配置してすぐに腰をおろせるようにしている。その時の気分により座る場所が変わり、場所の取り合いで稀にトラブルになる。そんな時は職員が間に入り別の方向に誘導している。	○	職員が目配り気配りにより、トラブルによる事故防止と、個々の利用者様の自発的な行動を見守っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、普段自宅で使い慣れた物を、とお願いするが事業所にある家具等をそのまま使用する事が殆ど。家具の配置は本人様の状態を観て工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個々の居室にも換気扇の設備があり、朝の起床時には季節を問わず窓を開け空気の入替えを行っている。所内温度設定も、夏は冷え過ぎないように、冬は暖かくなり過ぎないようにし、着る物や膝掛けで保温している。利用者様にも確認を取りながら温度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の使用や歩行の不安定な利用者様が増え以前に増し、安全面に注意が必要となっている。	○	安全を重視するあまり、過度な介助(手出し、口出し)にならないように注意しながら、目配り、気配りを強化する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家具や戸に文字で表示しているが、ついつい「どこへ行くの?」と大きな声で聞いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上に菜園があり、ボランティアさんの協力を得て野菜や草花を育てている。が、一緒に畑仕事ができる利用者様が殆どいない。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

独自の理念として掲げている「ゆっくり のんびり ○(まあるく) ゆこう」をモットーに、利用者様一人ひとりの個性を尊重し、職員全員が常に穏やかで柔軟な支援を目指しています。また、話しやすい雰囲気づくりを心掛け、家族様とのコミュニケーションも大切にしています。屋上に菜園があり、ボランティアさんの協力を得て収穫した新鮮で無農薬な季節の野菜を食卓にお出しさせて頂く事もあります。母体が医療法人であり、病院と併設していることから医療との連携が24時間確保できています。